

一般質問

「市政ここが聞きたい」



9月12日(木)



スマート農業の
推進を！

山田誠一郎 (国民民主党)

近年、日本の農業が抱える課題を解決し、成長産業化する試みとしてスマート農業の推進が急務となっており、本市の農業振興においても大変重要な施策と考える。本市におけるスマート農業への取り組み状況は。また、スマート農業を普及させるための課題は。

答弁 スマート農業に関する本市の取り組みは、農家への普及啓発や農地の維持管理、農業用施設の維持管理、農政事務の効率化、スマート農業の実証実験の5点である。スマート農業の普及のためには、国やIT関連企業などが連携し、一日も早い新技術の確立がなされることや、導入コストの低減化による新技術の普及、導入により、実際に農業所得がどれくらいふえるのかといった費用対効果の試算が課題であると考えている。



生育調査のためのドローン

◆その他◆地域振興について／高齢者対策について



市民に寄り添った
相談対応を！

村岡 卓 (公明党)

市では、市民相談のほか、福祉ニーズの多様化・複雑化を踏まえ、関係機関が連携して対応する「福祉まるごと相談窓口」を開設している①相談窓口の効果は②相談窓口が市民に浸透していないようだが、周知の手立ては③市民相談における初期対応の留意点は。

答弁 ①一カ所の相談で支援ができるようになったため、市民の利便性の向上や関係機関の情報共有などネットワークの強化が図られた②市報や社協だよりへの記事の掲載のほか、庁外の関係機関にリーフレットを配布している。今後は、さらにさまざまな機会を見つけて周知を図りたい③相談者の困りごとが何かを傾聴し、絶えず改善していくことを心がけている。相談者が解決したい悩みと紹介する相手方が合致し、悩みごと解決の一助となるよう取り組みたい。

◆その他◆消防団を取り巻く環境について



もっと本気で
SDGs!!

宮崎 健 (自民市政会)

①第2次佐賀市総合計画の中間見直しで、SDGsを能動的に整理して反映すべきと考えるが、現在の進捗状況は②約千ある事務事業レベルまでSDGsを結びつけるべきではないか③SDGsについて子どもたちに教育をする機会が必要と考えるが市の見解は。

答弁 ①総合計画の36の施策とSDGsの17のゴールは、輻輳性^{ふくそうせい}に關連性があると考えており、SDGsの視点を踏まえて総合計画の取り組み内容を反映した実績は、現時点で38カ所程度ある②事務事業ごとに関係を整理するには至っていないが、総合計画の122の基本事業との結びつきの確認や、総合計画に掲げる成果指標とSDGsの指標との関係整理を行っている③SDGsの取り組みについては、学校の実情にに応じて教育課程の中に位置づけて取り組んでいきたと考えている。



※3 SDGs…国連で2015年に全会一致で採択し、2030年までに国際社会での実現を求めている「持続可能な開発目標」「貧困の根絶」「気候変動への対策」など17の目標のこと。

9月12日(木)

聴こえのバリア
フリーへの支援を！



山下 明子（市民共同）

加齢に伴う難聴は家庭や社会での孤立に繋がりがやすい。補聴器は高額で補助基準が厳しく補助額も低い。WHOは日本の補助基準より低度の難聴から補聴器を推奨している①補聴器購入助成拡充の考えは②専門家の意見を聞き健診項目に聴力検査を加える考えは。

答弁 ①補助制度は厚生労働省の基準に基づき市で実施している。制度に感謝する声がある一方で、聞こえに合った補聴器が高価になった場合、自己負担が大きいのという声も挙がっている。今後も市民の声に耳を傾け、制度の運用に努めたい②国等で検査方法や判断基準が示されていない中で、市独自に聴力健診を加えることは現段階では難しい。今後、国等の情報、動向に注視していく。

◆その他◆市民のくらしに優しいまちづくり／放課後児童クラブの拡充／佐賀空港自衛隊オスプレイ配備



9月13日(金)

消防団格納庫の整備を急げ！



山口 弘展（自民市政会）

近年多発する豪雨災害等で消防団の出勤回数は明らかに増えてきている。その活動拠点である消防団格納庫について①整備する上でのルール等はあるのか②古いものは年間予算を拡充しても早急に新たな格納庫に整備していくべきでは。

答弁 ①基本的に建築年度の古いものから順に整備計画を立てており、周辺の開発状況、用地の選定などに左右される場合は整備順を調整している②消防格納庫の整備は、総務部と建設部で横断的に取り組んでおり、業務量や工事を請け負える業者の確保の問題から、現在の年間5棟程度の整備が最大に近いと思うが、今後も1棟でも多く取り組めるように種々の条件を勘案しながら進めていきたい。

◆その他◆防犯カメラの設置について／災害復旧の進捗状況について



佐賀市の魅力向上と認知度UPを！

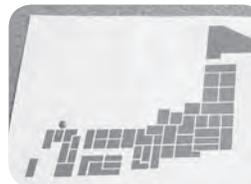


中村 宏志（公明党）

広報メディアの効果的な発信や多様な広報媒体を活用し、本市の認知度を高めることが重要だと思うが①本市の特徴とさまざまな魅力を向上させ、認知してもらつたために市外・県外に對し、どのような広報活動を行っているのか②その課題と新たな取り組みは。

答弁 ①市民向けには、各種広報媒体を使い市政やイベント情報を、市外・県外向けには、観光情報や特産物等の佐賀の魅力を、年齢層に応じた広報媒体を用いて効果的に情報を発信している。動画の制作やプロモーション大使を任命し、本市の認知度及びイメージアップを図っている②本市への交流・定住人口の増加効果について明確に測定できていない。昨年からは、性別、居住地等対象を絞り込み、インターネット広告を利用した広告配信事業を実施している。

◆その他◆地域の魅力と振興について



9月13日(金)

交通局庁舎外壁の安全管理は



富永 明美（社会市民クラブ）

最近、老朽化による建築物の外壁の落下事故が全国的に相次いでいる。本市においても、以前より老朽化が指摘されていた交通局庁舎の外壁のコンクリート片が落下する事例があり心配である。安全面からも、建て替えも含めた早急な対応が必要ではないか。

答弁 落下箇所は補修工事を行い、庁舎全体も安全確認を行った。交通局庁舎は昭和41年建築で53年が経過しており、老朽化による安全性の確保、修繕費の増加、休養スペースの確保、バリアフリーの対応などさまざまな課題がある。建て替えには多額の費用が必要であり、経費削減や民間手法の活用などを検討していたが、今年度の予算計上には至っていない。乗務員の労働安全衛生についても配慮すべきと考えており、関係部署と協議し、できるだけ早い段階で予算計上したい。

◆その他◆地域の魅力と振興について



佐賀市交通局

県と市の駐車場 施設の共用を！

千綿 正明 (政研会)



総合体育館で大会等開催の際、駐車場が満杯になれば、空いている文化会館の駐車場も利用したいとの声を聞く。サンライズパークの整備完了となれば駐車場利用者の増加が見込まれる。利便性向上のため、県と市との連携は喫緊の課題と考えるが、市の対応は。

答弁 文化会館の開館当初から、佐賀県総合運動場の駐車場の使用に関する協定を締結しているが、双方の駐車場を共用するといった内容のものではない。SAGAサンライズパークの完成に向けて、県も市も連携の必要性について認識している。効果的な駐車場対策や交通対策など県市連携会議等で協議しながら、しっかりと連携を図っていききたい。

◆その他◆小学校
体育施設の一般開放について／中学校教育について／企業誘致について／交通局について



文化会館駐車場

史跡東名遺跡の 活用をすすめよ

西岡 真一 (自民市政会)



八千年前の史跡東名遺跡の価値は、吉野ヶ里遺跡や三内丸山遺跡にも劣らないが活用できていない。課題をどうとらえているか。ガイダンス施設を設置する場合は、どういう機能が求められると考えるか。また、ガイダンス施設を含めた史跡の整備をどう考えるか。

答弁 史跡は巨勢川調整池の中にあるため、管理上の制約などから、遺跡そのものを表現するような整備は限られたものになる。そのため、来訪者に遺跡の価値や魅力について知ってもらうには、ガイダンス施設の整備が必要で、そのガイダンス施設には、収蔵保存、展示解説、体験活動、調査研究、情報発信などの機能が求められる。ガイダンス施設では、屋内展示と屋外展示を組み合わせて行うことで、東名遺跡の持つ価値を表現できる整備を考えている。



NPO 東名縄文の会のエンブレム

バイオマスの 受け入れ方針を問う

江頭 弘美 (自民市政会)



下水浄化センターのバイオマス事業は、衛生センター及び味の素(株)九州事業所を含む全てのバイオマス資源を固形状から液状で下水道管に流入して活用する方法に計画を変更した。この方針を変更した経緯及び今後の事業計画の目指す方向性について伺う。

答弁 下水道整備がほぼ完了し下水浄化センターの処理能力に余裕が生じている。そこで既存施設の能力を活かし、さらに事業コストの削減等を図るため脱水した資源を液状のまま直接受け入れる方法に変更した。このため下水浄化センターでは新たな施設整備が不要となり、衛生センターや味の素九州事業所も現行の処理過程が簡素化される。今後、既存能力を活かした市独自の仕組みを構築し、バイオマス資源の有効活用を図りたい。

◆その他◆オランダ企業と諸富家具
振興協同組合との
連携事業



下水浄化センター

観光振興の 施策強化を!!

川原田裕明 (自民政新会)



佐賀市観光協会が運営する観光案内所は観光客が利用しやすくなるよう改善が必要。佐賀駅構内の現在の案内所では十分な機能を果たしていない。佐賀駅は観光客の結節点でもあり、観光案内所には、おもてなしやサービスを含めた機能を強化整備する必要がある。

答弁 佐賀駅構内の観光案内所は、佐賀市が佐賀市観光協会に業務委託し、観光コースの案内や旅館、飲食店のパンフレットを設置、配布しているが、まだ十分な活用ができていない。近年、外国人や多くの方が訪れ今後ますます増加することが予想される。市の観光を積極的に提案し駅でのおもてなし環境を整えるためにも、観光案内所の機能強化は重要である。今後、観光施策の推進を図る中で、観光協会などの関係機関と協議しながら考えていきたい。

◆その他◆夏休み
家族ふれあい木工
教室について



9月17日(火)

佐賀城下米の国
まつりの見直しを



黒田 利人（自民市政会）

近年、佐賀城下米の国まつり当日は暑さが非常に厳しく、イベント参加者や観覧客が減少している。参加者や観覧客の体調に配慮し、熱中症対策に万全を期すことが必要であることから、開催時期や開始時間を見直す必要があると思うが、市の考えは。

答弁 花火やよさこい、パレード、総おどりなどを主管する各団体がそれぞれのイベントの運営を担っており、実施する場所や時間帯が重複しないように調整している。一つのイベントの実施場所や時間帯を変更する場合は、そのほかのイベントに及ぼす影響が大きく、調整が難しい部分もある。今後とも暑さ対策、安全対策に注意を払いつつ、よりよい祭りとしていくため、佐賀城下米の国まつり振興会において議論したい。

◆その他◆鳥義勇
公の顕彰について
／ライトファンタジー事業について



9月18日(水)

豪雨災害対策の
見直しを急げ！



福井 章司（自民政新会）

8月の豪雨について①お堀の起伏堰は稼働したのか②冠水時の車両通過による家屋浸水の対策は③避難所でトイレが使用できなくなった場合の対策は④緊急時に一次・二次避難所が相互に連携できる体制づくりを⑤今回の災害によるハザードマップの見直しは。

答弁 ①起伏堰及び5カ所の樋門を操作していたが、長時間の降雨により満水状態となった時には流量調整機能が発揮できなかった②冠水した道路の通行止めや土のうによる波どめが効果がある③簡易トイレの提供などの対応が必要だったが、情報共有が十分ではなかった。今後は連絡体制の徹底を図っていききたい④災害警戒体制時から連絡員を配置し、二次避難所との連携を図っている⑤対象降雨の規模の設定を含め検討していきたい。

◆その他◆全
員担任制について
／川を愛する週間について



持続可能な
公共交通に向けて



堤 正之（自民政新会）

①現在のバス路線はバスセンターから放射状であるが、環状につなぐ路線網にできないか②昭和バスの富士町方面の路線廃止への対策は③公共交通は採算性も大切だが、高齢者や交通弱者への福祉の視点を加味して次期公共交通ビジョンを構築すべきではないか。

答弁 ①地域住民の要望を受けて循環線を運行したが、利用者が少なく廃止した経緯がある。新たな公共施設や集客施設などの人口集積地には循環線を通すなど状況等を考慮し、公共性や収益性を図りながら検討したい②地域で設置した公共交通検討会議で十分な議論をし、地域特性に応じた新たな地域公共交通を構築したい③高齢化の進展により公共交通の必要性がますます高まると認識しており、路線バスを幹線として接続する地域内交通の充実など、福祉施策の視点を踏まえながら検討したい。



呉服元町・柳町の
さらなる活性化を



山下 伸二（国民民主）

①街なか再生計画に基づく、呉服元町・柳町エリアの取り組み状況と、その成果は②歴史民俗館の来場者数の推移は③旧古賀銀行の改修後の活用策は④歴史民俗館全体のさらなる活用策についての考えは。

答弁 ①佐賀県国保会館の誘致、わいわいコンテナの設置、古民家の改修工事を行った結果、空き店舗で出店する人など徐々ににぎわいが出てきたようだ②平成26年度18万3308人、27年度19万2594人、28年度19万7824人、29年度18万8510人、30年度55万7123人③幕末維新博覧会の葉隠みらい館で展示された一部を移設し、10月に公開予定④今後も趣向を凝らし、散策中に佐賀のよさを感じられるよう取り組みたい。

◆その他◆スポー
ツの推進／佐賀市
自殺対策計画の策
定を受けて

